

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

| | | | |
|------------------------|---|--|---|
| 学校名 | | 唐津市立浜玉中学校 | |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果から、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価していただいております。 ・いじめ問題への対応については、生徒・保護者と教員の間で認識のずれが大きく、教員がいじめの実態を十分に把握できていない可能性も考えられる。このことを踏まえ、今まで以上にいじめの未然防止・早期発見・早期対応をしっかりと推進する必要がある。 ・「特別支援教育」および、「業務改善」については、それぞれ支援体制の強化を図ったり、働き方改革の推進を図ったりしたものの、教員の評価が低く十分成果が上がったとは言い難い。来年度もこれらについては、継続して本校の課題として捉え、改めて実態把握を行い、改善策を講じる必要がある。 | | |
| 2 学校教育目標 | <p>「豊かな心を育み、未来を切り拓こうとする生徒の育成」～力を合わせ ともに伸びる～ 浜玉中三訓「時間 掃除 あいさつ」～時を守り 場を清め 礼を尽くす～</p> | | |
| 3 本年度の重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着と向上 ・心の教育の推進と道徳教育の充実 ・キャリア教育の推進 ・地域とともにある学校づくり | | |
| 4 重点取組内容・成果指標 | | | |
| (1) 共通評価項目 | | | |
| | 重点取組 | | 具体的取組 |
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | |
| ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 | ・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により授業改善を図り、基礎・基本の定着を徹底し、活用力向上を図るなど取組を促進する。 |
| | ○教職員の指導力向上 | ○授業の内容が理解できているという生徒の割合を80%以上とする。 | ・授業の『めあて』を明示し、『振り返り』の場を設定することで、意欲的に学習に取り組む生徒を育成する。 ・授業の『振り返り』を家庭学習につなげるため、ノートの活用方法の工夫やワークシートの開発を行う。 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒70%以上 | ・人権集会・平和集会や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・修学旅行・バス研修及び保護者や地域の方と連携した体験活動の実施。 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上 | ・生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QUテストを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努める。 ・いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。 |
| | ○浜玉中三訓の徹底 | ○自らあいさつができる生徒の割合を80%以上にする。 | ・生徒会活動で、生徒自ら啓発を行わること、意識の高揚を図る。 ・生徒会を主体に毎朝あいさつ運動に取り組む。 |
| ●健康・体づくり | ◎「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | ◎全校生徒の朝食喫食率を90%以上にする。また、給食の残食をなくす。 | ・生活アンケートを実施し、朝食喫食率を把握し、給食だより等で保護者へ向けても情報を提供し、意識高揚と改善を図る。 ・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 | ・部活動複数顧問制を効果的に活用する。 ・部活終了1時間後に退勤する。 ・会議日は「ノー残業DAY(定時退勤日)」とする。 |
| (2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | |
| | 重点取組 | | 具体的取組 |
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | |
| ○特別支援教育 | ○個々の生徒に応じたきめ細かい対応 | ○個々の生徒に応じた適切な支援ができていると回答した教員70%以上 | ・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、積極的に支援会議を実施する。 ・定期的に学級懇談会を開催し保護者からの情報を得る。 |
| ◎志を高める教育 | ◎キャリア教育の推進と情報提供の充実 | ◎夢や目標をもち、その実現に向けて努力している生徒の割合を70%以上にする。 | ・自己理解を深めさせるとともに、働くことの目的や意義について、教科横断的に取り組む。 ・生徒の望ましい進路実現のため、適切な進路に関する情報を提供する。 |
| ○小中・地域連携 | ○小中連携と地域連携の充実 | ○小中連携や地域連携を図り、生徒の教育活動の充実が図れたと回答する教員が70%以上にする。 | ・小中連携会議を実施して、小中連携を推進する。 ・サークルクラブ活動を実施や読み聞かせなど地域人材を活用して教育の充実を図る。 |
| ●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 | | | |
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ | | |